物語

台藤名所記

291.64
U174h

291.64 U174h

緒言

兵庫名所記は寶永七年植田下省子の著作にかゝり、名所記中の珍藉として貴重せらるゝものなるに、當時出版の部數多からざりし爲、洽く世に流布せられざるをもて今其一本を得んとするだに容易ならず。さるに本會は偶々兵庫能福寺にて圖らずも一の板木あるを認めたり、是ぞ名所記の古板なりしかば轉た其奇遇を喜びて來歷を尋ねけるに、今より十數年前同寺の施主故喜多甚七氏が寄進したるものなりき。されども寺にては當時の事情を知るもの今はなしといふ、因りて喜多家につき更に寄進の來歷を質しけるに、唯獨り老母がおぼろげに當時のことを語りけらく、そは或年人ありて、さる古道具屋の店頭に兵庫名所記の板木一組の賣

国立国会図書館
29. 7. 22
336486

物ありもし心なきものゝ手に入りなばやがて滅却せんことの口惜しきを語る、主人實にさることのありては兵庫の名所を後の世に傳ふる術を失ふのみかは、所の名折れなり、いで買ひ取らんとくにと促しやがて家藏となしをきつるが、後又已れ獨り秘め置かんも益なし幸ひ能福寺は由緒も古き寺なればとて、新に箱を造り家族一同の名をもて納めしなりとぞ。抑もかゝる板木のあたら庫中に朽ちなんとせる折柄、ゆくりなくも本會が此板木を得て、この珍藉を同好の士に頒つことゝなりしは、かの喜多氏の篤志を紹ぎて喜びを分つ所以なり。尚こゝに本會が之を再刊するに方りて同寺の施主南條榮太郎氏も亦その力をつくされぬ。

明治四十年十月

神戸史談會

凡例

一初丁に大概の總圖として最方角を引

一上乃巻ハ兵庫名所を先として艮北乃方西之宮まで五里の間且又廣田より上神崎迄名所乃志るべよ著明古跡を同巻の末に追加

一下の巻ハ兵庫より南西の方摂津播磨丹波の境川まで約五里凡二里名所田畑ゆて衡海

一名所の古歌續集まで出し載るこゝ見いその教

一所々に教と積り兩の巻後丁に集む亦法

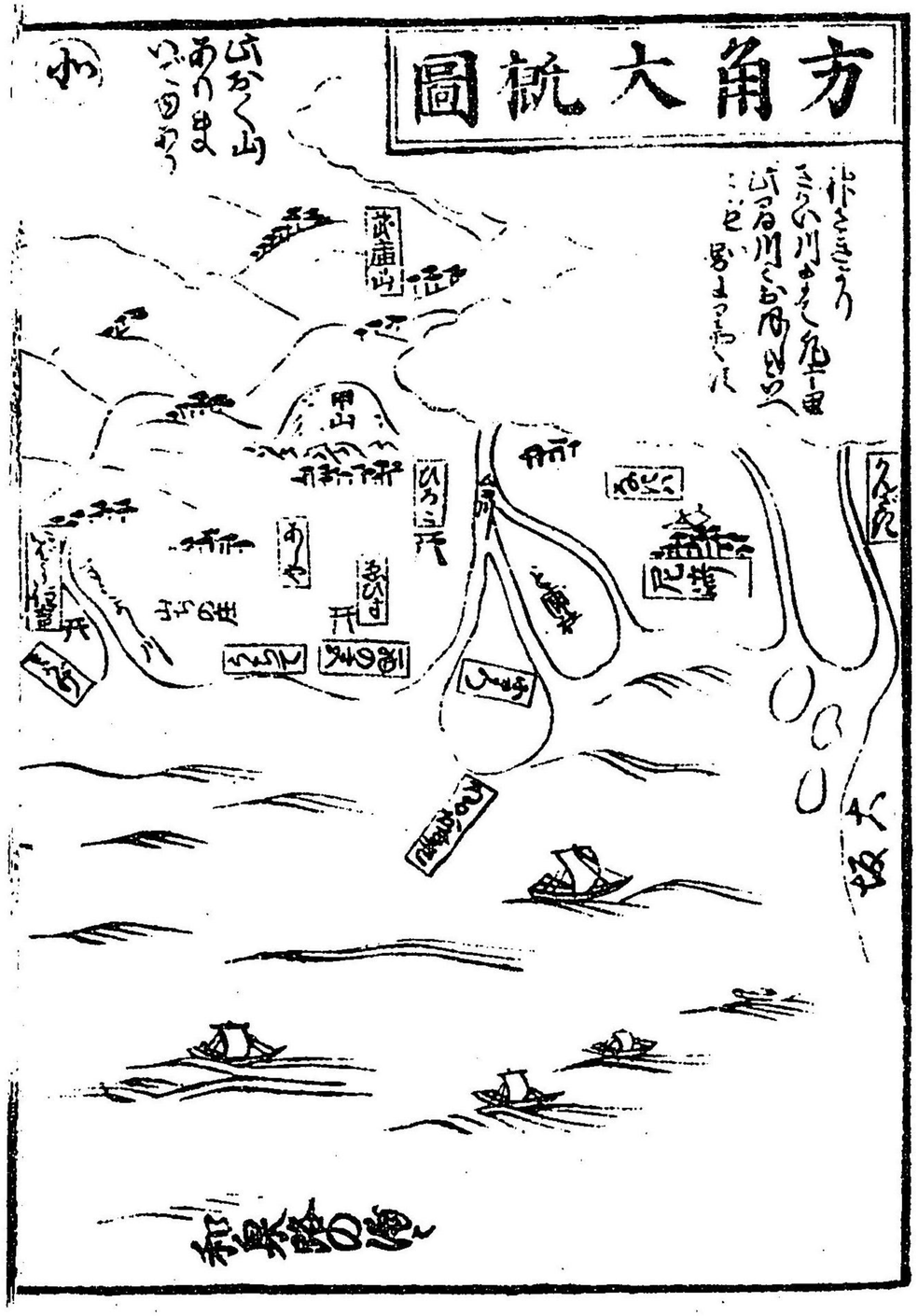
乃法も附ゝ

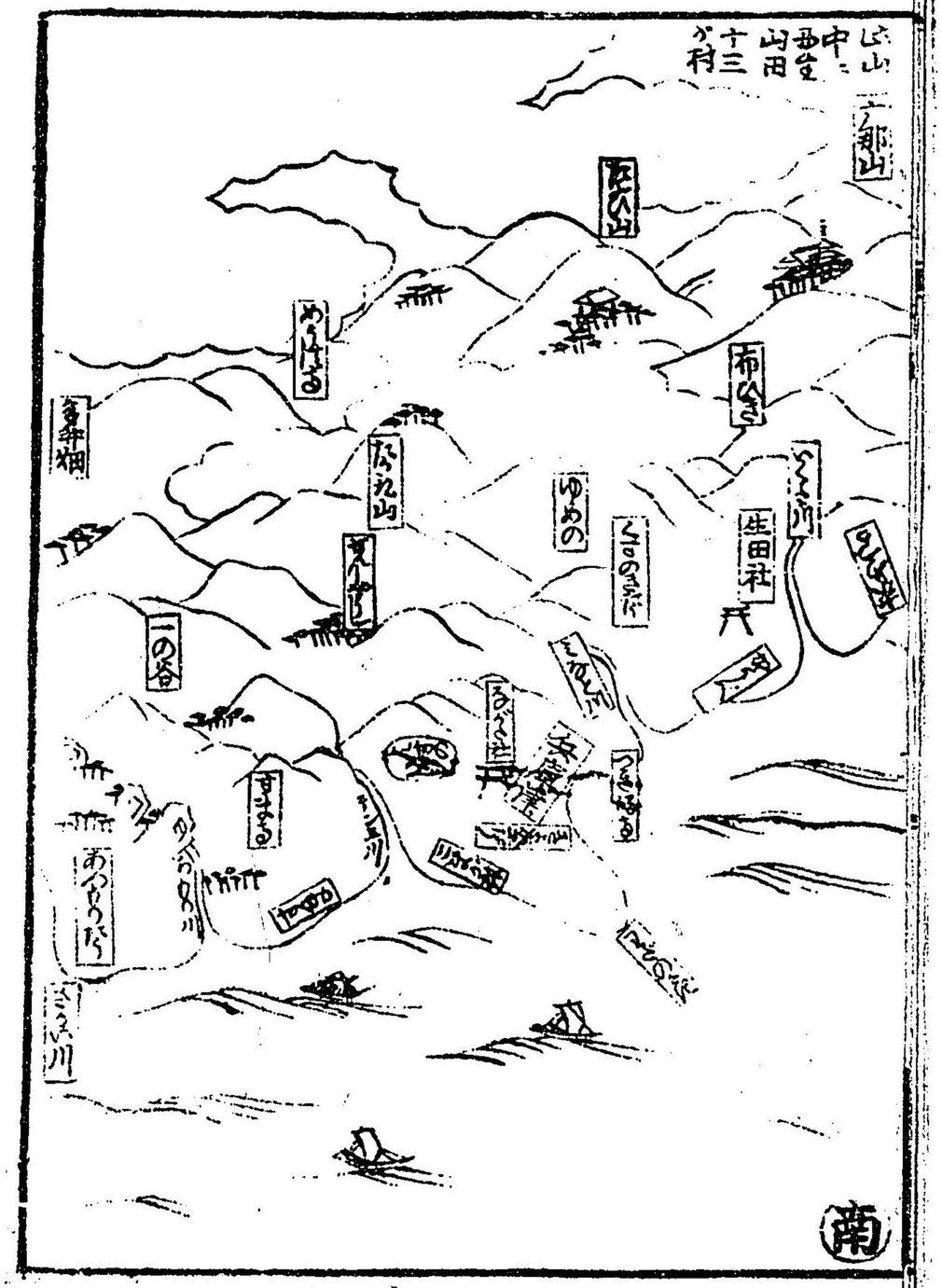
攝津

故老俗傳云天探女神天磐船ニノリ此國ニ攝タル高津ノ号ヲ取テ攝津ノ國ト稱ス亦漢書云攝然トシテ天下安云云字彙云攝ハ靜謐ナリ兩儀相共ニ要津ノ連續ニ取テ大土國トス上管十三郡所謂

一住吉　一百濟　一東生
一西成　一島下　一豐島　一川邊
一武庫　一島上　一八部今名田部ト三字ニ作一能勢
一兎原　一有馬

以紀の郡ゆい矢田郡新兎原郡乃三郡をり又武庫川ノ名ものあ郡ゆ内を加りるゆ





序

予看違和於坊亦之次有示兵庫名所記者閲之雖匝袁不克於一州其畫中有丝川江海辺有曠野邨落也亦神祠梵宇廢宮荒墳森森亦既多哉將以區別乎方程按訂乎故事若失貴容〻〻歌章騒人之詩賦及丝翁漁父〻〻談閭巷傳聞之語共收並貯已既亦採之〻〻不得不廣則載之亦不能不見也終裁制

之互最得顧而潔予嘗遊於其地目擊厥二三長令也接此冊索之則不賴編地之術而瞭然乎八席之間美矣吾子勤焉且夫家務煩擾之餘理來會晤之徒棄非療倒杯酒波惑糜梓浪度日之度唐而尚仑此好事苔可謂有所用心而不徒消固者哉矣

寛永庚寅孟五月　　州澤醫生識

兵庫名所記巻之上目録

一福原都の事　○並地形の事
一来迎寺　○つき鴻の古天宝
一若狭守経盛塚
一小宰相の局石塔
一雪見乃御所
一鵢越
一安徳帝假皇居
一楠正成塚　○石碑図
一宇治川
一築島の由来　○経の島
一佐比江
一漆川
一みをし山
一菱野村　○水壁のこと
一天王谷
一差方塚
一廣厳寺　○楠正成の石碑
一再度山太龍寺　○蛇谷

一神戸村
一河原兄弟塚
一生田大明神
一梶原井
一北野天神
一布引の滝 ○日寺
一小野坂 ○日崎
一生田里
一摩耶山忉利天上寺
一船寺八幡
一花熊城跡
一生田森
一藤棚 ○敷蘆萩
一嫌ケ口印石
一生田川 日山 池 海 浦 磯
一砂子山
一敷馬の浦 ○日濱
一同若菜
一求女塚
一弓弦羽嶽

一御影山
一鬼衣住吉社
一山路遠 日湯
一葦屋里 日洋 沖 浦 潟
一湯元の薬師 日松
一阿保親王御廟
一御前沖 日濱

追加

一廣田社
一鷲林寺

一御影森 ○羅漢松
一瀧田浦 ○五百羅
一本庄稲荷 ○もとりれ
一夜鳥塚
一打出村 ○金澤山
一宿河原
一岡のうや 名ていす谷

一武庫山 六甲山
一感應寺

一 南の松原
一 鳴尾橋 里
一 小川橋
一 琴浦明神
一 雛波の里
一 大物乃浦
一 長洲村
一 津戸村
一 かりしたくや
一 武庫川
一 猪名川
一 柳江
一 浦の御橋
一 神崎

兵庫名所記巻之下目録

一 福厳寺 ○自然居士の井
一 福海寺
一 二本松
一 真福寺 ○さうせ川
一 和田の笠松
一 一遍上人塔 ○真光寺
一 びんぢる
一 清盛石塔
一 八棟寺跡
一 渚沙の入江
一 月見の浦所
一 萱乃御所 櫻町天皇
一 魚乃御堂
一 薬仙寺 ○長谷観音
一 千僧寺跡
一 灯籠堂
一 和田のこさ死 円海入江渡り
一 和田明神

一大和田の浦
一本間遠矢
一延喜山
一白ひの梅
一源五塚
一長田大明神　○円里
一蓮乃池
一鑑橋
一妙法寺　○車村矢拾地蔵
一淀の絡橋
一兵庫古城
一内裏屋敷
一真野の池　逆梅里海浦
一通盛塚
一薄藻川
一明泉寺
一西代村　○七ツ井
一禅昌寺　○鷲取山
一二葉松
一忠度塚
一猛人松
一勝福寺　○大手村聖天稲荷
一因幡薬師　○稲葉山
一礒馴松
一鏡ヶ池　多井畑
一腰掛松
一若木櫻　○漢所
一須磨乃関屋
一一の谷　○いよ乃越　○鉄拐ヶ峯　○鐘ヶ松　○安徳天皇御遷幸陣所　○坂ヶ落　○巌石落
一飛松
一月見の雲
一光源氏古迹
一行平松
一綱敷天神　天満宮付
一須磨寺
一うら海の山

一上野　○二の谷　○三の谷
○鉢伏ゲ峯　○日の山
一敦盛塔
一境川
一須磨の浦　○こすり江　○こすり川　○樵夫ノ
一山田の旧跡　二ケ所
一兵庫十景ノ題
一福原観音札所名目
一兵庫より徳方道法
一須磨乃浦十景ノ題
一所々年積　上下後丁ニ記ス

兵庫名所記巻之上

一　福原都の事

抑摂津乃国矢田郡福原ノ庄兵庫ハ應保年中に築港成就し、後平相国清盛入道浄海の治世として試所と定め給ふ　治承四庚子六月二日　人王八十一代安徳天皇　今年三歳　一院上皇御改殿をしめ給ふ　改元ハ治承ノ年号を改元ハ　あハ国ハ入道と物一門の人々ハ外百姓人民ハ　山陽の西海安藤より試給ふ　福原ノ人池ノ大納言　教盛乃山荘皇居と成　（苅田村ノ古跡あり）　同九月新都ノ事

西べきとて上郷小八徳大寺の辺大和寺(土佐門)
宰相中将通親奉行あり(あらせ)奉行(ぶぎょう)
の友夫をたくさん和田乃松原西北をとて九
城乃北の刺の方(一条)うりみ原こいを
てきれ北のう公はまらく金義(ぎ)しうごを百
度の改年行(ぎょう)ことに繰くて又戦没あるとして同しき
日九十一月廿一日四郎の遠幸ようもの古改入乃ち
此地の方ごとく傾ものか
○後条新地形の事源平盛衰記に云小八林的
金改は田廣田西乃夫希(ぎ)壁を並ぶ(ぶ)ことせた伊代の
ちうして崖の松原清新乃松ふ代ようの無縁あり

西べきとて上郷小八徳大寺の辺大和寺(土佐門)
宰相中将通親奉行あり(あらせ)奉行(ぶぎょう)
の友夫をたくさん和田乃松原西北をとて九
城乃北の刺の方(一条)うりみ原こいを
てきれ北のう公はまらく金義(ぎ)しうごを百
度の改年行(ぎょう)ことに繰くて又戦没あるとして同しき
日九十一月廿一日四郎の遠幸ようもの古改入乃ち
此地の方ごとく傾ものか
○後条新地形の事源平盛衰記に云小八林的
金改は田廣田西乃夫希(ぎ)壁を並ぶ(ぶ)ことせた伊代の
ちうして崖の松原清新乃松ふ代ようの無縁あり

井小畑と有りの浦乃白玉岩間かつ波の後を顧
ハ和歌のことと侍し曉乃嵐の漢くるを吐おれ
蒼海乃天を望ことり夕陽沈こと呑を波あ
漫くして遠帆をれ浪の清まされ巨浦花こうして
眺望煙波の眼を遮る里月のうを得る須ヶ
浦の海ふなりろく蛍火燃るあり夜の星れ麦の
いづくもうりく有心すくるあり

一 築港の案中

去る大正平清盛公は兵庫の浦上下洲の松の松風波
乃雅美おっしんを為ようく慶保元年二月上旬より
て港を築くあり乃日八月二日大風と波と勢しく

きうのゞけく元の書海と云ふを寄て同二年三月下旬
の波民於成良なるゆゑとして築るに又南風おこりて
勿白浪とゝうこと又海と論うしるべくり波又成船のごと
殺小船の博士阿倍の泰氏と百く問ものに天文地理の
妙術をゆくきわゞを考ゆけるに山海通例あり一ありて
がゞ一人相と入く築しめ給へ成船すべきこゝに
係く曲玉生田の小社に関とすへ往来の旅人どかゝめ
捕へしに嶽沼あり家よ平右衛門家臺に私を児
童いまゞごとのごとくに弦人の歌と義ゝ我一人山海
に入て命に替ん人を撰白馬に白鞍おきを乗海内ふ
りしどうや出く又物のごとく一切絶と書写し服分て

海底よ入ゝ諸よ龍神納受ありて海底よ入ゝ
ゆく此沼成船して往来の紀乃恐ゆく玉家の玉来代
の規模ゝ成りる係く絶乃海と成船又築寄
奥五の来年 義安三癸 己年ともいの
一 築海寺 今兵庫町家の内来海ゝに西
海土西山流沼寄山来通ると号も平清盛公名よ剣
あり應保元ゝ七月十三日海僧養あり往者ハ七堂伽
藍の名場ありしと建武の法被却すらゝ中絶
一 中堂阿弥陀 一観音堂 和田岬海底ゝあり
○霊窟
一人相の山 松王丸七人の木ぎ寄ゝ一清盛窟の位 五十七年乃州

一經乃橋　樂橋
義助法師又當氏もしの里西へ流る
一法比　兵庫小濱より西
後撰　よそ経くふるとあさひ（不分明）も荊ゐく今之絶へき　藤原
一若狭ヶ平經後塚　右さひへのつゝきたれ未詳
弟永の中一の谷合戦為城乃目形和の古跡に対き
一漆川　兵庫小の出口より東一丁余街道の川
千載　みそ川　和泉水清出る近風小藤の麦ゝ人漁戸渡る
夫木　漆ゝ流れ渡ゝ麦ゝ　濁る山月夜れば　西行

一經乃釈迦　橋曇弥曇ヶ一無財天像　弘法大師作
一梅の実ゝ伽藍　彫刻の像　しゝ什物ゝ

一小宰相の局の墓　漆川の上鳥尓村尓成り間に在
山はだ〇八越あり乃三位通盛乃墓あり那ハ能登ゝ女く
通盛一の若き対面ありしを歎き寿永三年二月十四日
船より海尓とび果給ふ不幸の若き妻に夫婦の名残を
たて今に古歌あり
一漆山　川乃あり上あり
へ山ゝ山ゝ山ゝ小峡ゝ風小緑橋の松い波やかゝん　徒然草
一雪見の宿所　御所乃ゝ山の上漆山すそに在
瓶尓松の見渡遠公雪見の亭と是乃ゝ旧跡ゝ
一闘鶏野　一名ゝ燒鐵地
今義孝村ゝ云兵庫ゝ十丁ゝ西ゝ方ゝ漆に一村村ゝ

336486

○氷室を始めて作る事

紀に曰く仁徳天皇の御代に闘鶏の稲を献りて氷室を造りて蔵す

らんとのたまひしかば大臣答へて申さく冬に氷を蔵すべし

今の世に大臣答へて申さく冬に氷室を造りて蔵すべし

日本紀曰仁徳天皇の御宇闘鶏の稲を献りて氷室を造りて蔵す

仁徳天皇の御宇闘鶏の稲を献りて氷室を造りて蔵す

中務卿

闘鶏の稲を献りて氷室を造りて蔵す

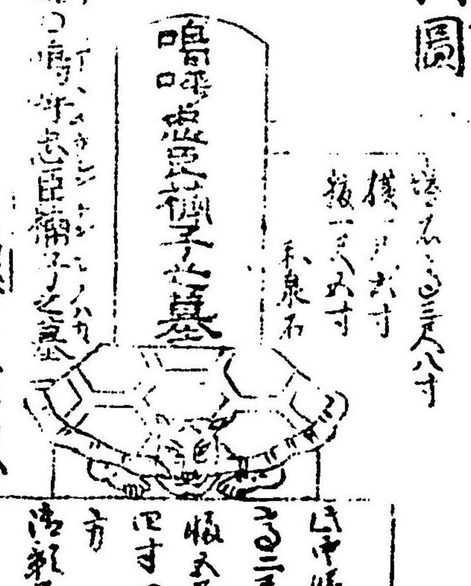
闘鶏の稲を献りて氷室を造りて蔵す

闘鶏の稲を献りて氷室を造りて蔵す

鹿ハ[illegible]ニ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

一天王谷　兵庫より半里程ハ有馬温泉より
いさらいたるより岩はなを手頭天王の宮あるを取繁紙
薗の法祢素盞烏尊なりもとより此湯の山へ
六里だうり山みち
一安徳天皇御皇居
摩耶より八丁ばかり紙屋敷ハ遠国の御皇居なりしなる
大納言平の教盛卿の山荘なりと
一差方郷　芸田村小東畑の中に御宮京都本色
治承四年六月九日福原遷幸新都大納言国
綱卿御供うけたまわりて此湖を築もとより此新都より
一里内裏を造らるべきなりとあり

一摂河両判官摂津正成塔
兵庫より小御所の上手、汲部村のお島が中住吉と
湊の中間の二本河中しゅう元禄四年来る水戸
黄門光圀公古墳とさいとうをたて碑石を建る人
其図


唱口　盛臣摂子之墓
横一尺六寸
縦一尺八寸
和泉石
墓ハ高サ三尺八寸
横五尺四寸方
清新石
墓ハ高サ三尺八寸
横五尺四寸方
清新石
墓ハ高サ三尺八寸
横五尺四寸方
清新

忠孝著乎天下日月麗乎天天地無日月則
晦蒙否塞人心廢忠孝則亂賊相尋乾坤反
覆余聞楠公諱正成者忠勇節烈國士無雙
蒐其行事不可概見大抵公之用兵審强弱
之勢於幾先洞成敗之機於呼吸知人善任
體士推誠是以謀無不中而戰無不克誓心
天地金石不渝不爲利回不爲害怵故能興
復王室還於舊都諺云前門拒狼後門進虎
廟謨不藏元兇接踵攙殺國儲傾移鍾虡功
垂成而震主策雖善而弗庸自古未有元帥
妬前庸臣專斷而大將能立功於外者幸之
以身許國之死靡佗觀其臨終訓子從容就
義託孤寄命言不及私自非精忠貫日能如
是整而暇乎父子兄弟世篤忠貞節孝萃於
一門盛矣哉至今王公大人以及里巷之士
交口而誦說之不衰其必有大過人者惜乎
載筆者無所考信不能發揚其盛美大德耶
右故河攝泉三州守贈正三位近衛中將
楠公贊明微士舜水朱之瑜字魯嶼之所
撰勒代碑文以垂不朽

右碑文十七行跋文二行都合字數三百三十字也

同再興の願ハ元豊三間四方也

一　菩提院　坂本村西ノ宮にあるなり

醫王山廣嚴寶勝禪寺と号す後だいごこの堂は勅願

開山編惠法師和尚の弟子業海禪寺堂と塔婆殿と

稱す正成の彫像あり一代記あり

○正成戦死建武三年丙子五月廿九日

○開山明極禪師同九月廿七日と雷る仏あり連極

の書也

楠正成同弟正季はかるの墓廣嚴寺に一部十六基

七十三人自害し云正成罪千三業

○廣嚴寺に来る大聽山安養寺と号して貞享の年

間新造なり御廟あり此墓抔なり

一宮治川　兵庫より八丁小御所の小川は西より上西へ

宮治村古三ヶ所の宮と中交村と村と戸数あり

一再度山大龍寺　兵庫より少し西へ行て義経の高山へ

坂口より宮治迄村と見る山寺五丁半

△此寺は高僧敏者　此外伝記あり

称尚山と称す尼山と称す称徳帝の御宇称徳天皇二

年亜相和氣清麿勅を奉て基経三刀三

礼の如意輪観音自ら彫刻して開創し給へ

又延暦年中に弘法大師此山に来り給ふ像を求法の

事と聞こえ入庵一法入より新堂に安置し夜
給あつく大同元年に開山あり山へ再度ぞ
中を路大比丘尼の奥の院なり毎年三月十八日
佛會なりと法人稚児
○観音二尊の本社判官義経寄立神先寺の西
あくべの嶽と云事紀よし
一蛇谷　日山間よりあり
弘法大師入唐の時渡り給ふ広厚と云ふ
とかくさんの時渡り給ふ
すむ事沈めて後よ庵に入海の釣りなく満上
又ちり山滅よおのく大蛇死く者ども敷

世大蛇の異物ありと光山一法大蛇入唐の時渡り給ふ
つくいおを蛇谷と云
一神戸村　宮治川の下に紀伊遍の村名神戸
こ切りの西のほと走水流と二つの谷成を神戸とし
三下[illegible]山[illegible]より清水の間水ふるしらあり
○和名類聚抄神戸村と見あり
昔神功皇后三韓退治の時船ありてこれよりあり給ふ
敵の国と云ふ人ども敵郷村ここ人すこと云伝へり
一発鉄撃伝　うう人村の上の一村なり
山城の寺永禄年[illegible]紀伊国法兵公のさてこて清の
山夫国新宮紀伊城と築く志本拾清る村童に

[illegible]
[illegible]
[illegible]
天正三年[illegible]
加[illegible]
[illegible]
[illegible]

求永源平合戦の始平家一の谷八艘に逆寄せ
大将軍新中納言平知盛卿三位平重衡卿以下の公
乃禁方南海をまで逆寄せ本と曳地梢と云れたる
見方西南一の谷攀ぶ岩根に岩根に樹まで凡四里の間を
城内とりしとうや

一同大明神　　祭神一座　　社家　後藤氏

稚日女尊　　桜社と云小四座

天照太神御妹と神秘

日本紀に稚日女尊坐于斉服殿而織神之御衣也
神功皇后紀に云伐新羅之明年二月稚日女尊誨之云
吾欲居沾国長峡国因以海上五十狭茅令祭之云

御位貞観九年十二月十六日従二位

毎年八月十六日祭礼あり

一猪梅　　右社内にあり

一の谷合戦乃と云梶原父子二度のうけ乃時場と源氏家
家梅宮の枝を折びて[illegible]時所よ[illegible]

玉葉　鳴捨くいつら生田の森に[illegible]

一梶原平井　　同社内よあり

右戦場の云梶原平三景時井の子を結びて民
運を生田の神よ祈るよりかくるべく

一敷蓙藁　　同境内よ敷あり

太夫平敦盛出而の萩と菊と和歌を紙に俳諧を
又敦盛の遺ふみあり　敦盛新古今又はあるんそ一の巻
へ為ゆゑ　幻夢より出而　対面也　去ぬ
古塚　とい萩だうり也

一城ヶ石戸の石　生田の森より三四丁西北之一村
あり梶原家紋二変のりけ出而戸の石也

一小地天神　同境内　小地村より也
治承寿永　大納言源頼朝卿　山吹　和田乃宮
さいり弦巻　あるなり　戸倉也

一生田川　森の東　御乃川より
小谷南へ流出る川也　布引の滝乃水　生田の池也

山中より出て出る川　その滝を布引の滝
うりはるかなり　求女塚の下　こもりく
義　恋塚　源平戦場　生田川の水　鎧
法の岡の生田　六人　三石　石川の滝　基経
一生田山　同池　同海　同浦　同城　俳諧多
夫木　郭公生田の山乃ちかい　今ちかいもいろん　長谷寺内大臣
同　月やどる　沼田の池　乃ちかい　康光
五言　杉　生田川海の　弁乳母
六帖　沖　生田の浦　人　後撰　憂人　和
夫木　波　生田の磯　生田の磯　為家
一布引滝　生田川の　ある

滝二流れて流る所在ふる事余海道なるべきの所也

一地こえへ[illegible]

千載 みちのくの[illegible]

新古今 [illegible]

天木 [illegible]の滝乃伯耆国[illegible]

平治物語 去小松の内府、以滝へ清く修行被おの[illegible]

人雅房卿被御[illegible]

[illegible]

滝の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一孫子山　尾張国[illegible]村の上滝乃ほとり

天木 [illegible]

一小野坂・同傍　生田川の東小坂也傍ハ川すそ

撰百 [illegible]

天木 [illegible]

○[illegible]

中尾村分[illegible]

一敷島浦　紀伊村岩屋村の内浦多[illegible]

[illegible]

千載 [illegible]

新古今 [illegible]

夫木 「波くぐる」 [illegible]

一 生田川

夫木 「[illegible]」

同 「[illegible]」

一 摩耶山 [illegible]

[illegible]

[illegible]

仁王門よりうち内外の石垣落ち[illegible]

▲本堂 南向 十一面観音 ▲夫人堂 ▲毎方塔

そもそも法華寺あり

抑当山は天武天皇の御治世天竺法師人の造創する

所なり観世音は三寸の真像[illegible]

[illegible]

[illegible]

きこえぬ者ゝよおさまる物ゝ
建者ハ大伴蓮と云て虎伯爵三百貫ゟ下ハ米の綸
表ふくらひすと清ぎ城と桜別墅の名剣ゝ見置て千ゟ
小綱ゟ右後衛慶を今場合僅なり、寺領ゝ
一本光院　一観正院　一王義院
一蓮華院　一大乗院　一明王院
一慈眼院
元弘年中ニ郎の城ゝ赤松入道義心義城乃石ゝ山酒
しく巖石場ゝうて今ゝ迄ゝ古伝残まり
一求女塚　又奥女ハ書　乙女塚
おとゝ塚ハ女の供ゝうゝ乙女と云

右豚二つあり　一ツハ　生田川東ホ泥村より　一ツハ　小竹西野　千ヌ野男

一ツハ　遠田村より　一ツハ　須右川冠田村より　長十丁ほど

五葉　いろへの竹田ものの子ひとり女の五葉なり　福右

月　若乃屋のうまひとり女のおさこうをかくまれハ孫のうまれる

月　豚ハ二乃木の枝ひとり中ようあの男ホ子ある事也

月

試測　大和物産　強来良材集よ多くたこうり

もり　清の宝あり　その宝ホ須女ゆりうまひとり女と中ようあ男

二人ようひとりハ同宝　能系氏ホ竹田男　今一人ハ

和泉武千勢氏ます　松ようん云るその男ともものの

比泉ようのうまで同ド中ようり女ひとりひとれ

生田の川よりひろごりをとりてその二人の男をようひて女乃親はなをく山川を渡りて石を射くおくのりんかくへとゆんと云男どもをよりたのそていろりひろうこの石の穴乃こと射つ今ひとりへ尾のこと射る何と云ふくもゆゝど女おりひさうく

伯爵戒我身をけそんはの生田者川ふの石乃こと

こゝ後く山川へ分とをけ二人の男をつゝきて同一正へ分とをけ果おうんめ親いとしく結て取ひげをなり

ぬ男はおやをとをけ女の婿乃こうに婿と給

うはとをさはの出れ男の親乃ちゝ同ふとこそ同ふ

婿とせよ化の出乃人ハ命乃こと犯ゝ不婿乃ふ

私記の親をもてゆづりとり私ゆくをとこびゆよはあり

はゆ婿ゝ本婿のふ婿とうりけ出ゝ生つきりとの世と

ゝとの通りりてゝ乃ゝ

[illegible]百 東[illegible]

鎌武〇中ふ山田をゆゝ[illegible]女婿ゝおゝく結乃人新田

家真先より私へ為ゝ乃ゝ

一 私寺　大石村およて杜あり　正八幡宮を祀ア

寺ふ波豆川村大舟ゝ乃ゝ

一 弓弦羽宮　村のふ

一 神　功皇后三うんと伝しゝ爵まゝ手箭と織ゝ

多人山田人口四百八十四人今濃尾両国に称す源義経西国
下向の砌此浦に漂着し難風に遇ひ多人溺死す元和年
中流る又あり山嶺に埋りしかづりの嶺あり
一浦新の滝　薩摩原　亀原往古村名南西渡
是れ新村の谷渡を不知原とすべき也亦八松
原のうらに小よりこれ有り
一世不知又曽呂ヶ浦の岩礁に影の松と唱へり　基俊
○浦新山新田聖礁に母后三宮と称ひ仏像
浦波和尚　生身の観音と称し十年と
雖八新波の浦より光つて西方浄土を遥拝
多人雖新波の浦に南山のいでさ光明を

たちまち霊を通じて奥義ひらけたり
て浦波観音容顔彫刻し浦新と称す
▲山麓の浦波に則山かんぬんと云へり
大木
一兎原往古　同社　ひろこと三里ひたの村山
西国
西原教あり社村中・川村づき往古川と
祭神四座所宿　林自　横田氏
○住吉　敷郡野村　中村男　下田村男
○田霧姫命
○天照大神
○神功皇后
皇后三韓へ出征の義竜宮神より授
物く爰ひいろり織よ授給ひ此之信ひ元祝ひ

社と云り社の号は[illegible]
[illegible]大社のこと
○鹿ノ山　外おろしの
○うしの社　[illegible]場の並木の間にあり
○五百傷　方角つまびらかならずとへども一説老木
[illegible]川の末にて一村あり
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一　湖四浦　大ん村今[illegible]の名[illegible]といへり
大木　[illegible]

一　山[illegible]　竹町[illegible]
[illegible]
○同湯　[illegible]
[illegible]　田中　山村　[illegible]　[illegible]　横屋　奥[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一　[illegible]稲荷社　[illegible]村　[illegible]山[illegible]帳[illegible]村

の海をうまれて海を隔て人りかたる村民
あまと郷とをまとりて節義を勝れて民おのく
稲をとりて人をくらし結とひとく義村は社と建かたの
年民祢さわかる業毎日四月八の日祢鎮祭也

○同曙松　ふるえ村あとづまにて

昔は所よりて義村の稲荷の祢幸祢と云えばり
をりよりか海祢といさ〜かりる不ともも
一葉屋里　ふるのかしぎの村あるやかり
同ゆ芦の里の晴の秋の月をもて月はかなて
義　みのくらけ方雲ふく芦の里に荒夜　定家
名　月はかく海の面の月の名の名　家隆

○業平物語に鳴居古迹　はせの里に業平は領地
なりし故に業平ゆも物語に物語の歴乃跡なり
一時乃秋の月の川の面の景も秋ふる海乃燒火乃　業平
○薄屋敷　古迹村の平に昔あるやはせに及
西は七百余所の領地薄屋の家に住く一ヶ月
ゐを俗に文薄屋が櫛中なりて相続乃年と云し
に年す薄屋海よりして走り悪く横領をり国く府
乃孤獨の身と為まり最明寺入道時頼公流浪をも
ゆく貪狂うりの人乃孤独をいうしもに行く月
乃見をとうに人薄屋と紀問してもうに面とゆく
所領をしてしゆり

○猿丸寺又猿丸公先祖田橋氏村の内外に古迹
のこり伝説不詳猿丸寺又の石橋小川を東西
一鶴塚　芦屋川東の方下流にあり
近傍流の両源三位頼政矢を射給ふ処
伝曰頼政矢を入て両流よりなれば芦屋の浦か
化鳥鶴飛来て浦人を招く是より浦
名とす　同所二東村の西に塩屋村
一湯元の茶所　同所二東村の西に塩屋村
一有馬温泉　此湯の熱性極度の神力ふく南
海分山芦屋の浦と云往昔いまだ温泉
山の麓清月次に示給して此湯像と為て海世界
蓮破壊して今第三番目の

湯元の松しるし
一芦屋津　同浦　同沖
あしの屋の瀬の浦海岸の小橋もとより
夫木　黄ら小芦屋の浦にあまをとめ数舟
ソウ市と　明波あり屋の瀬に浦
物和　遠見の所屋乃津のうまも数多ありけり　後撰
ソウ名　芦屋の浦風に海まくさ焼こ
木イ　金津山　去出村より内小の間山あり
山の係親王式家山より北金尾一万黄金一中枝
を埋む式里仏閣小社を建り西寺屋
あり　しくく金津の等所四寺と結構

いたさ二十一ヶ所ゑとの仰

朝日ゆ二入日迄ノヨヲ千二金千枚瓦万枚ト云

一　お出者　長原白田里余りいなのお拵一村しこの浦

むし神功皇后三韓征罰しゆく藤家にゆり

多人皇子生れ光明皇子この御方東村大学頭八幡大菩薩千阿賀一の

皇子藤舞拔賀二悪鬼の皇子を長男の軍士ごんく

山法ゑ集く母と後皇子を奉りまゆく南ゆふ巡て

陰陽しゆゑ皇子年士対出ゑとんさうら出の法乃

ゑ出ゑとゆり被石神寺の御ハを祭り

○先ゑ氏ゑ出ゑ山開ゑ及ひ垂義ちん不

一　御縁起を御廣　大ん寺出村上ゆ山ゆ平藤長

建二百五十三年孫正尹鶴一丸の孫親王仁和三年東
の方より則の保山親王おとり寺ゆり
沙年和泉流の為に腐を遷されるとき出村
○建武年中蜀山の波寺の山ゆ嶽ゆ移
一宿河原　西文寺より余西まわりの鷹橋
あ月まり九丸の寺佛とうでめしわく月ん橋下和泉久
の庄村又月和泉新山をさして寺の東とうしん橋のもと流
一御前沖　西文の漢蛭児の流ども山ところへ
和功皇后三韓さいばけるく出陸れた樂寺より
のゞせ寺前沖の出う海漢の小屋廣田の郷より
に丸嶽多八で寺せ寺八今廣田の社則色こ坂み

こと海を渡りて沖ないの沖ないの乃濱とゝ又美出の浦
浦の無名あとは比良坂の理あさを浦去より月さく山を
武庫郡と号し神功皇后紀さこゝより
千載　たまくしげ　おきつ人の沖と月濱せい年弁ふ人の
夫木　月さゝらく光小濱のかりの浦やおきつの濱あさりの白ゆき　後成
一西文　摂州武庫郡なり　武庫分又四里　山部民部丞
山部の西のこゝ
祭神一座　○蛭子　世小西彌五郎の氏神
右殿神二座　○大己貴命　左　○事八十神　右
日本紀云伊弉諾伊弉冊尊為夫婦生蛭児
皇三の御子天照大神の御身己より三柱みあらせ給ふ

山部郡立ざりしより天鳥の橋樟船より風雨ち
葉すて岩ゐ山西よりおこれよりせ給ひしと絶する夷捨人おなり
て蛭ひるこゝさて捨ぬ西の方より流れ蛭児
の方へ出ぬ求めなるこゝ流れ出ぬ三男に成
ゆ者夷三郎と中こゝや海を領する神こゝ給人
又母ハいの小森こゝ出ぬ三こゝ給ひ給ふ
又源氏物こゝあこゝ社こゝ
月こゝ濱小志ゑこゝ蛭の宮さぶり
摂社　○名次社　○稲荷社　○恵田社
○須川社　○沖夷社　西の宮の外田郷中に
毎年正月九日神祭蛭子の宮廣田の社より隨幸

容和の夷と西こくの人擬乃ろ西と敵ろ人の
の張と成く村民へ戸と閑ふへ出ど忌籠の祭と云
法泉名戸と閑く社奉も世俗十日恵比須と
云六月十九日八月廿二ろ神事
於玉 西の海の風なせよあけやあひも三神
旨多 ふへ神あ七ぬ夷ふろの名と物の事八 北政
○又山ゐる民ろあこ為の村新田義貞陣所
○推古天皇九年三月聖徳を初て賣買の術と教蛭
子の神を祭く商賣弦護の神ろ今に恵びも祭神
ろて法商人あがめるの社ぬろ

名所記追加

一廣田社　昔夷より ひろく村南ぐ里ろ見道ありこ道
より三丁ばかり　二十二社の内廣田八幡宮神功皇后乃御事
又京の祇所謂
▲一殿―住吉　二殿―八幡　三殿―廣田
▲四殿―南宮　五殿―八社
毎年七月七日神宝を出―諸人ゐ様ゐ又
八月十八日後の神ろの民ろ昔ろ祭
蛭子太政大臣
社縁古々
今日ひそ八ばかり蛭ひめ夷ひろ井神に海ろん
一武庫山　凡てむこ郡ぬ在り

夫れより西だや濱出てこまいと云かゆ迄と山さてこと桜堂なの公名
今　桜の枝乃武庫のこ孫は者ありて　はち升濱よりすの白浪　寺之六浦
○六甲山　武庫の續きより有馬郡摩耶村よりいろ一ゝ苔武
庫六甲の山門より當山八仲哀天皇先后大仲姫乃名をかごと
うもう忍熊王てんもう尚ドもひて後神功皇后を惡て矢を
発ー三韓こきうを待給ふ所是を知ひく武門の右孫ごつ白浪
軍應をこをつて麝坂王及ひ忍熊乃族臣を誅して山城を堅其
なごと首ゝらを以て六甲山と称ス
○甲山　右山續き武庫六甲乃半腹をてるれこちらかた
そのしと四方同面よりて面向不背の山也或ハ乃基備ふこ
ろ西に居て毘陽乃大池を造らしめ其堀をもつて線

一　鷲林寺　ひこの山門よりあり山号八六甲山と云　天
長十年弘法大師開基　本尊十一面観音乃像を安置　是則
大師彫刻の尊像也天正年中信長公放火よりて伽藍乃及
宝地旧記悉く焼失ーて後今僅ニ草堂を結ひ本尊を
移ー村人こまを祈ふる
一　感應寺　神尾村よりあり山号ニ尼山と云始ハ補
陀落と云開山ハ元亨年間ふ観音弘法大師乃作浦潟
ゞ慶を像乃門ゝ納ひ旧記畧之
一　角松原　けの浜町より二丁ホ
万葉　天乙女いとり姫大ゝよりおほくして　はのて打ふれ乃ふ

一 清戸村　　右つきふ一村あり

以前に為田彌仲乃清子びちよはあの所代よ立ー　歌枕萩原

仲彌乃二子幸壽丸の首を為田よりはしとふして抱こうり山

池味ようてあるとび表に埋ーより風雅ー名付ちど松原山昌林

寺恵心僧都乃開基し墓し墓丸石塔あり三月十日法池

乃の魚ちるとと云　弐八津門ようす

一 鳴尾碑　海　浦ようる歌

千載　とはとろ八都の夫乃山の端も見て波高屋の浦は出ちるこ　宗長

一 押照寺　小まち村分ぬ為

おーて屋の宮を祭ると云へり

万葉　ちれて知ちり雑波乃海なーてちるこはしめちる人　家持

一 小松崎　当尾後ろ小松村八御乃よりお雑波姫に三ッ

松と云　八松　留妻　小松　山三ケ所を云

新勅　雑波ちるこの風さ吹　汐れ八小松ヶ崎よ千鳥海ちり勝明信師

一 氏車川　大河

夫木　清の宮にありこて家氏吉丸川流れ名氏合いは宮こ分　知家

主業　ひまの浦とあり加しいまり平高海元納加波ちるより　人丸

一 琴浦明神　東野田村

さぐの天皇牙十二乃れ子　藤大臣　従位河原左大臣を祀ひ家山城

の国吉茶河原流よおのて塩竈社浦を横ー　ゆきき山ちり清を

波しめちるこ

松ち分に浪の潮ち寄海八かち光のあをふ面こちり

一 猪名 逢川とく往還ふもとしあり山川 猛 乃川分より云
當國を始 那 池田川 逆 を云ともいへり海 渡 漆 冲 川 山 池 歌 を
一 雑波里 是より少し一村あり尼崎分八丁戌亥方
四所より梅あり 百濱 西王 仁の歌
京今 ふかいけより 嵯峨 山 れ 冬 を 春 より 今八 春 べ り ち く や 山 花
一 蜻江 日橋 あまが橋 町 を 長 ぎ の を し と く あ り 橋 へ 乃
を し と 云 當 西 西 波 郡 末 津 村 を ち し て ゆ り へ と 云 と ま い へ り
仁 徳 天 皇 此 御 宇 よ 那 に よ 流 り し て の 流 く 西 の ち 廣 く し
て 田 園 す 永 し 森 西 よ あ ハ 潮 の ぼ り て 苫 里 乃 絶 ぬ 文 の 如 し 郷
糸 乃 搖 南 水 を ら く 西 海 よ 入 ん と の ま て 堤 を 築 清 く せ り 小 の
跡 を 添 て と 云 伝

一 大物の浦 尼崎の渡なと云 橋 町 おの中 まあり 定家
此 西 源 の 義 経 西 西 ハ 落 と 西 ん と 住 む の 屋 ち び ハ よ 矢 を 摩 ぜ ん
旅 高 社 西 又 建 武 の 比 秦 乃 武 文 御 息 所 を 供 奉 し 云 伝 の 西 畑
（下らんとあり）ときき 山 那 て 蟻 雑 に あ ハ し と
一 蒲の初鴻 日 陵 辰 巳 よ あり
乃 ぬ と あ ハ こ ん と の ら 茶 き て 源 よ 震 乃 浦 の ち し ま 生 家
一 長洲村 日 陵 尼崎より八丁
抜 遠 ハ 寺 渡 稲 の 間 ハ 津 の 西 乃 ち ぎ ば と え と て 袖 ち 打 ぬ
一 神崎 尼崎より北丁天満 を 一里 ハ よ あ ら
五 集 神崎のあ 歌 を 見 と 波 浪 ち ぬ い ち と り ひ む 狐 乃 風 し と 人 知

天文数の頃より寛永七年の比まで

一福原三ヶ所　五百余年　一苑慈薩陳　百三十年

一はさ湯　又四百年ばかり　一鷹取山　千三十年ばかり

一つぼの水室初り　十三百九十年　一伊保ヶ山　八百余年

一相正成うち死　三百七十余年　一赤切宮と石　千五百年余

一同石碑建　二十年ばかり　一ひの養泉寺　九百年ばかり

一ひぐち山開き　九百年ばかり

兵庫名所記巻之上終

兵庫名所記巻之下

兵庫西の町

一福厳寺

巨鰲山福厳大聖禅寺と号す開山佛光国師なり

後醍醐天皇にたのまれ御幸の時二度三度の年月

梅日尚なる小一帝皇居の不なり

尚焼門小自然居士指南の井とかしこ水こ

くして湯すり事なし今久遠寺の時門小也

一福海寺　同所南なびなり

大光山福海興聞禅寺と申開山在蕃宿大和尚

尊釈迦運慶作名高軍源の家氏と祝聞安氏のため

創一多文の沢る氏はくしくしう庫の上長無歌

以長庫の陣小屋の跡なり　初代亦三宮則長氏
御自筆代額　之後又御孫の義滿公御寄附の額とのこと
山号寺号なり　往昔は二十間十伽藍ありに嘉吉年
中大樂院にて敷寺　防舎惠心ありしと後今此地ふ
福徳ゝ

観音堂十一面大悲観音　弘法作　弘法大師乃化身
弘法像あり　小多門天の樣　弘法大師乃化身
一二本松　右寺より南西四町の上
建武の頃足利左馬頭直義陣所
一真福寺　兵庫西南の町のち
當寺八面柳子岐王岐女　開基なり　観世音なり則きなり

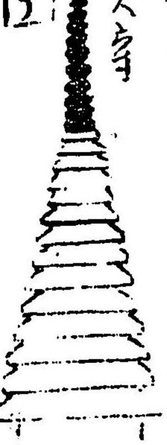
の寺に佛小像なり一位寺より南合石橋とこへ小川あり
逆瀬川ここ月波の滝　恩賜の滝　流紫の滝
乃山沢ふりし川しゝ　ありり
一和田の豊松　右川の南ごゝ　ひり古木八四ヒ
傳徳の松なり
歌　枝末まさしひまる若葉かな　右家
稚児の吹くる笛の音かな　ところわさ　ひさ　季経
一一遍上人の御廟　同所
西月山真光寺　教法　法名　元祖一遍上人の石像　白円寺
用のなり　迴向の御正庵　二月日　年八月廿三日　出家　法名　迴化
一の小御年八十四　又天保八丙申年　六月十日　四十四代

一遍上人当麻御寺にて出家して遁世し給ふ
元徳上人石塔の事
当山住持仁明天皇御宇に惠尊法師入唐し宗
王小謁に帝大悲乃菩薩像を賜ふ帰朝の時小舟に
乗てうつる順風忽ちに吹て船の入る所に
惠尊是を見て大悲菩薩の
安置所と尋ぬるに
なお世の石ふり時宗元徳上人と共に興の同行
当寺什物品々

▲蓮宗自画の像　▲人丸自画像小定家の讃歌

▲紫雲乃石号　元徳上人ゆかりの墨書

一瓶塚　真光寺の前にあり
但馬守平の経正の海嘉永一の合戦敗の
うしろあり又一説に
一清盛石塔　
今海辺に
平の貞時に石塔を建る
其塔



十三重

弘安九年

一八棟寺の迹　右同所清盛公の御願にて仏寺堂塔二十
天正の比退転して今石ばかりの清盛公の墓所
年に成寺と号このかた書一天享釈書かりて
一法華堂八間　又次仏　同所下
百畳　わたり　行基菩薩八間の法華堂の跡ばかり清盛公
モシヲ　尼さき　号法華の八間ばかり　叡建
一宣乃御所　同所南京の方迹のこれり清盛公
墨の四所　又傳の四所とも云仏所小三間九間仮屋と造
後白河の法皇武神ある清盛公七月十日列の流へ文
学上人ある所にて仏所所とて懐宣ヶ法華経千部十万遍
一奥の御堂　同所大鹿山宮居長福寺と大議

冠天皇し皇瑞女子屋に花白ろりしゞ天正年中に彼部沢異名
とゝと八川北ゝ二遺亦雲沢ゆ今異名之

一藥仙寺　清四塔より一町南

醫王山と号す天平二の年開山玄昉法　天台宗

聖武天白三行基僧正に勅命ありて開基　一男大浦蘆
安二三面の年京於昊山西阿上人時宗に改宗せり

觀音ゝ古海に傳教則手別長音寺同所に祈願ある
なり又尚白に南愚自畫に施餓鬼乃絵幸法乃宝物也

一千僧寺の跡　右寺の南今会原の三昧なり

萬年山ゝ行基僧正の開基一千人の僧ゝ供養ゝ
男山なり　亦因老大師さぬきより出ゝ向の長尚流ゝ

おなじく弥陀経一千巻会仏一百万遍ゑんを修し一切衆の夏
秋帝の八月の中旬に津土正源各義集まりし
一灯明　千僧の南和田の原の門
おなじく人々はわざはみを尽とゝゝゝゝ三ゝ持経者千人集
百万灯をさ行ひの山に今退転いまだへの弘ゆり　西行
山永系司さ尼殿尼法師ゆりの加沙ゝゝわにの人家ゆり
建武の比る氏法くゝゝゝ長の元大被尼寺四氏の源ゝ和
なり
一和田川磯　同海　同入江　同海
兵庫南海中辰巳向に小さゝゝ島ゝ沖ゝ
玉葉　夕陽わさ比ゝ長比漕船入行帆小門や武庫川浦風　大政大臣

名豊　次風宮尾乃杉はおとゝ重て和田の入江ゝ波ゝ月新　英性
一大和田浦　和田のゝさ沈漕船
未本　おなじく浦さる今嘉船とめくゝ法さ長辺さ月とゝ　具氏
万葉　漕きう漕なり沈代ゆり子船の泊る大和田ゝ　不詳
一和田明神　兵庫南長ゝ所ゝ長ゝ比ゝ長ゝ比ゝ万治
年中に洪水あゝく岡この河辺ゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝ　毎ゝ月廿三ゝ祭祀ゝ四国上下の漁船ゝ社
ひゝゝゝゝゝゝゝ長験祈願ゝ
一兵庫大塚
天正ゝ中池田信輝高ゝてゝまの郭有世ゝ左衛ゝのゝ婿男
正九帝ゝ塚を守ゝ中旧郭今ゝあり

一 本間遠矢　和田川端より三丁西の小松原
建武年中に武蔵国より上洛のとき本間孫四郎重氏
和田の流れより相模国乃御船へ矢を射て名をあらはしおく
一 円覚敷　是は系図に所なし　ゆゑ拾丁ほど西南し
福原新都　安徳帝御遷幸の円覚寺　西丁四方築地乃
迹あり和田の地名を今に称のよしなり
一 延喜山　和田乃系に
堤明天皇行幸あり　流れ　てのまはりに山所王城乃地勢あ
り　迹　きに一つの山はてつちに築地のしるしあるごとし二丁ほど三
一 平の平山あり　延喜年中　城　山の名とぶなり
一 長尾池　浦海里続稲　長尾今十丁余に東長尾村迄

万葉　長尾の池の小菅を刈りよぬ　人丸
万葉　刈りそめし和田の小菅　人丸
万葉　ときとはず神と社とてすの池の小菅を引きよきすべ　人丸
未未　若くため長尾の里人うちむれてうゑわら苗や万代の秋　隆佐
一 白梅　長尾村にあり
菅原道真のこと和田のもとに船をあつ風と結ぶ氏なるの
秀句を乃し東愛一行名なし
一 通盛塚　長尾十丁西御船乃の面池のもとに
私に云有一の合合戦重盛山乃大将越前三位ちとり塚
三十間ばかりなる木村源五と組討しかの
一 源五塚　ちかなほうの池の中ほどに柳あり

近江の國ノ住人木村源太重章ことうと打死

一ゆるぎ川　右ゆるぎの名ハ[illegible]ノ小川橋あり

あいらの重傷　平家物語ニ云　藤川　苅藻川　をもうら

源ノ義重の池　右ゆるぎ[illegible]ノ林を[illegible]ノ極屋と源ノ

をすてゝ[illegible]をきして落ゆくとあり

一長田大明神　ゆるぎ川ばゝき在ノ多屋あり[illegible]額道

[illegible]の[illegible]　並木八[illegible]田村ノ内毎年八月十八日祭礼ノ

▲祭神一座　事代主尊　神主大中臣

祇社二座

神宝ニ九穴ノ貝アリ

神功皇后伐新羅明年二月皇后之船迴於海

中以不能進吏還務吉武應水門而トス於是事

代主尊誨之云　汝吾于御心長田國則以葉山

媛妹長媛令祭

○村上天皇應和三年七月十五日於當社雨祈アリ

一長田星　兼仲

夫木ニ云ゆるぎもめでこゝにのゆるぎ[illegible]ノ里ハ苗取

一明泉寺　長田村奥天照山と[illegible]大日堂あり

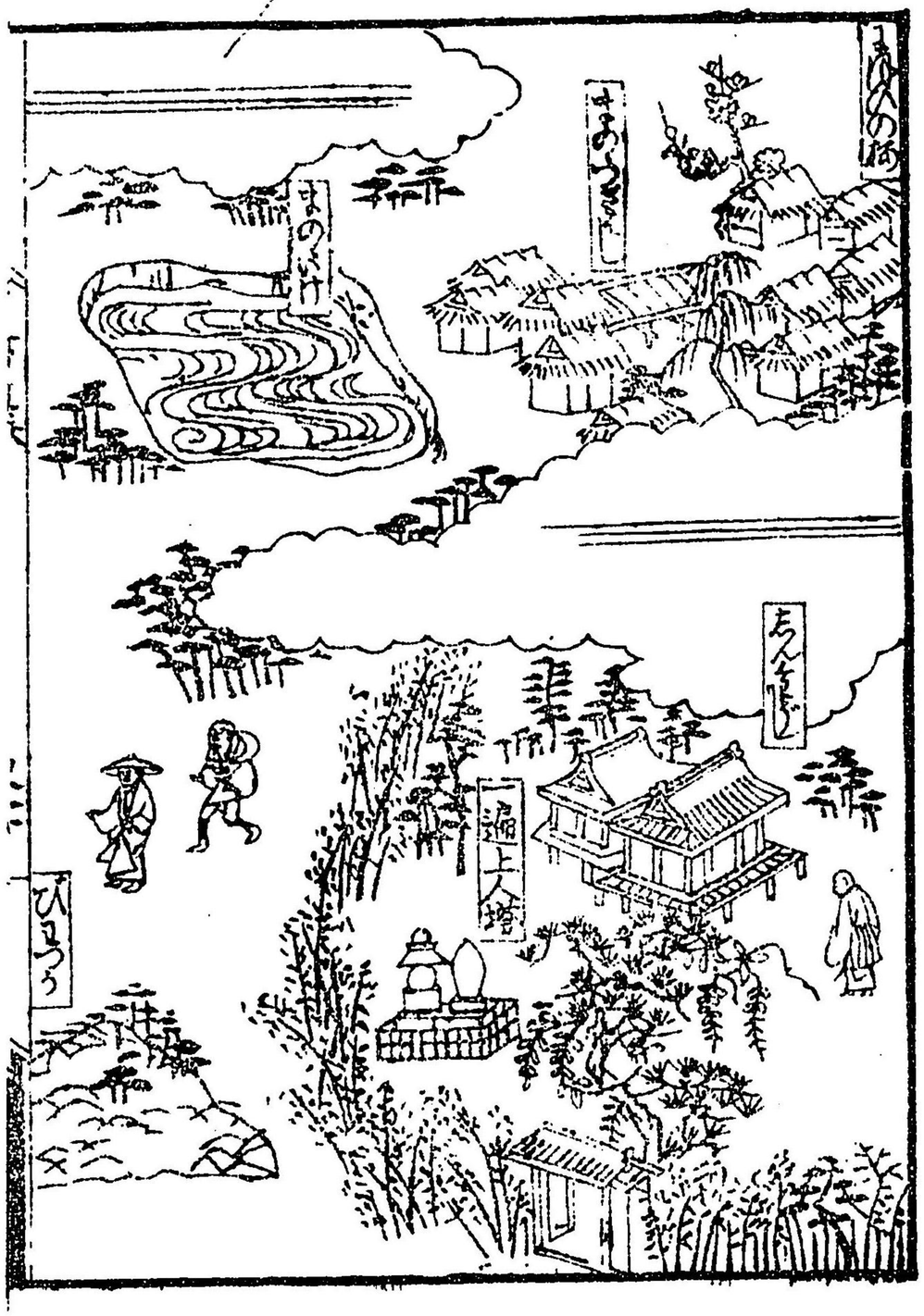
一の谷合戦のとき越中前司盛俊ハ平知章ノ

はゝあり

一蓮の池　かゆるぎ川つゞき

此池ハ沙基ばゝ川天王寺ノ中ほゝ也ノ農業旱魃の愁

なるらんがためノ蓮の一種を池中へうゑ八功德水と称し



そうの花と影をうつす

一 西代村　同ろくべゑ一村あり人家五十ばかり

高くとりあげたるほとりに源のうしほのうしほ

井ノ坂ヨリ

一 盛俊塚　けふ代谷西山ノ麓四畝あり

重盛は大将名門ちうのかみ日とりやー　源氏方盛俊小平六

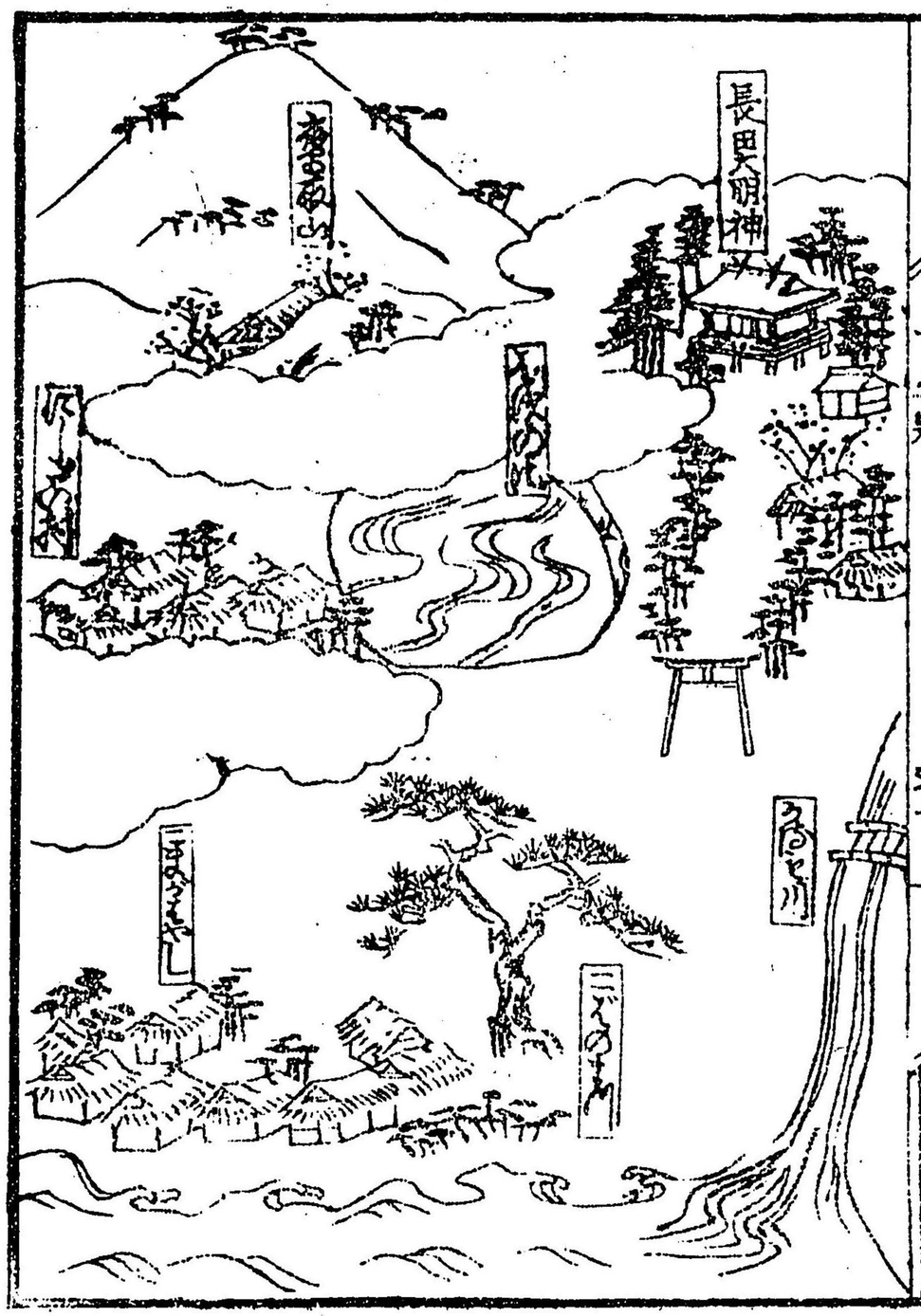
則忠と組合のうつる薄けうく盛俊と対

一 禅昌寺　そもも尾上山の内

帝釈神拝山と号す開山月菴宗光大和尚　後光厳院

延文元年　御多釣のもしやなる聖地　恵教聊刻　嵩山八豊

伝云政変ようあひしるるとうの安ま中上用　今上帝と賜り



和跡を儀興しる所あるべしと山上の山を拝拝山とやう又奮れ
山と号す昔神功皇后三韓帰朝あるて是よいまり石座あるて
いまの上をなでまよ忽る山とうたうよりて神拝山と云月菴和
尚登山して拝くあるとも今を解の勢原く久社宮ハ去れ
濱ず展ちのぎぐく濱脇ちの経呂るニハのち其後和尚六年
四年ちて康元元年己三月廿三日遷化しのち正縄大祖禅師と
贈号あり

一妙法寺　　其の花ちたてゆ山なく
長言妙法山と号ず命蓮のち孤なし女堂見ゆつ天大仏し又ちより
十丁ゆ少なる城山なくと車村とやう所あるち矢拾地義かちあり
一二業私　一名ちやうれ　又ほ氏れとも云

的ら林村のほよありてさよ原ず二百余枝に方へとびあり
はらぼ多くあり

為へへあり人の的ら林乃松れハ種しこ古来もくらべりをり　康礼

一　淀継橋　去年の尼ら丈子面淀迄ゑが林ノ東
今ミウ三ら丈らめや淀の継そしまど丈ず類面人どえ丈ら淀と丈　七月毎
緑　又月ゑ上どのつぎ橋ら丈しより淀ら丈淀ら丈の淀のらいめれハ

一　忠度橋　こま林二十ゑ
これまるまのたのう一谷淀博の自辰ア六伊大忠淀ら討ま丈
まよ丈りを倉ず之行年　平盛又孫ハ丈ら三里余丈し
橋乃ゑ明衣人丈童の平ろうまゑ

一　盗人松　右の次的の尚村ありむしハ二ず内り橋

て今一ず大ま之山松海者ゑまあつく白浪ら屋毋陸の丈
ゑ母人の名ゑりとう　ゑ丈まり橋松ともゑ
○ぬま人と白浪とアの後漢の張角とかりのむ浪ん
を奏し一録ごう白波谷とゑ丈まるる居て賊賢丈
おう一取ろう浪の人是を白波賊とゑ淀ら丈こ是
より盗人の実名とまりかみとゑ

一　飛松　板倉村
管亜相使ゑ流乃ゑ丈橋橋松の三年ゑ愛しゑ
ゑ美丈情ゑ丈ゑ丈ゑ勢とゑ橋ハうんく使くしゑ
橋ハ拾て松のゑ拾ぼれなさゑとゑ松山丈ゑ飛
きうしさゑ丈ゑ淀船を和泉乃押より淀めるゑ又松も

なを美わ俗四方を打しり丈一本の松を極く若と今ホ
乃こもり

一勝福寺　　西代村今又下りいたりの上文景を
聖天往況の社こもるおく大く村ノ上よりあり　桂尾
山とりス一条の御勅願所ホ中ホ聖ろん旬春月の作用
さん　北ホ上人　高云也　昊宝あきあり中ホ　牧渓思
恭　昊たよ三善法師ホの筆おのく佛法弘法大師
西行の像　又岩座つきど供ホ時ノ像十なり　兼
佛尊　西とも昔八坊今移文あり　が今僅し

宝光院　　遍照院
象法坊　　梅本坊　　東林坊

一月見の松　　兵庫より一里東次ノ村ノ上山の中腹ニ
松十ホ余あり行平中納言月見の四松
○圓慶寺師　　福寺山　　皆東次ノ村
一ひうが源氏ノ古迹　　りすあるもり
仁明天皇のれよ光源氏の君次ノ明石の景色よまれし
愛ホ斬く長秋を這りまいたりかませりきと中ホ云
一破馴松　　東次ノ村辺すべての松を云
行平ゐたる山陽ノ左遷ノ人三と称して阪海ノ名所
を慕ひて松の葉ぐ落ノ方へなびくと云　　後嵯
次ノ陽ノ古座を望れ下枝ノ浪のうくあり見物
一　行平配所の松　　ういたりの屋へ東次ノ

中納言あつまの行平に和泉守ありしこと
捨たきものゝ事ゝ由記ありし松と云大さ五ひろ余り
の山ぶりと松風村雨乃旧跡と云二人の海士の古塚ハ
こゝより一里山奥よりゐ井の畑と戸ゝ姉妹の石塔あり
ゐ出せ乃池と云
ゐくらゐは同じ人あらぶ次ゝの海ふとゝ行平俗ゝ答
○焼の池　ゐ井の畑村よりあり
行ひら卿に配流のゝち能よ戯きうさ多ぐまゝ徒然ゝ松
の梢むらさめの如と乃ひ人形乗舟へ乃ぼり行ひ
て後二人のわん乳すざうちの哀成をこひきゝをこのす
ゐ出ひ四ひ人ぐたがいよ山水ようき侍を移し所ゝ
ハとゝく焼の池と云
一　網敷天神　行ひゝ松の西
菊相公を祀ひ社なり　紫紫よ紅さの山を記よ山浦に
永と云む漁者船人鯛を捕て遷座ゝ祭ゝ指蓮浦
の景色を詠めゝ人時の人形像を写し祭て徳出ゝ天神
と称す
一　腰掛松　次ゝ広ゝ なるのゝ記かいゝ乃ゝざ見今ハ枯
次の末ゝ中三位平方ゝ後次ゝの浜遠成ゝて庄の太郎
家長ゝ生掛きゝく山松よ侍ゝ漁人男酒を掛ゝ
ハ寸ひろ二一寸
ちゐ乃ゝ痕あゝとゝを折ゝ次ゝでの井ゝ

一須磨寺　兵庫より一里半余西のいごう上人
上野山福祥寺と号し次第寺観音と開山開基上人
柞須に居とゝ戸入むりて天長の治和田の浦乃海底に毎夜
光明かゝやくとして碧天を照す漁人恐怪を延る漁人
あやしく網をおろし奥をとゝ西一つの檀木観音の霊像を
拾ひ小宇に安置し其霊験あらたなるしるしを敬延る
漸を光孝天皇仁和二年に開基上人を勅して須戸
の郷上野と戸山よりなる郷一山なる若宮創あり天下安
全の御祈願所にて其後久寿年中に源三位頼政清盛
寺社を悉再興と云古領御祈願所あり
又其後北大納言豊臣秀吉頼政再興

○中古の厨子ハ頼政寄附の遺物なり
○楼門ハ金剛力士宣家の作にて彫刻なり

須磨寺霊宝ハ弘法大師作
▲毛葉の筆　▲高麗笛　祐経作
歌　敷ものゝ代ものゝ小次郎作のよし此ものゝ号と云
▲敦盛赤旗　佐佐木上人筆
同　もゝ寿丸ものゝ子孫で絶て孫跡の連ものゝ
▲母衣絹　名号
同　佐の水墨　此ものゝ師作
▲敦盛幼少の時の手紙和歌二首　一同甲冑あり
庭杉　此ものゝ師作

寄松枝ゑ

編る松よりとせの春を経て久しきを地形の山風

▲若木桜制札　武蔵坊弁慶

須磨の桜　山桜江南不動堂一枝を折盗む輩者

任天永紅葉の例伐一枝者可剪一清

寿永三年二月日

今坊舎十二宇

一採寿院　一大聖院　一慈眼院　一東林院

一蓮生院　一不動院　一華厳院　一正光院

一梅本坊　一松之坊　一安楽坊　一東義坊

○漢竹坊より音神功皇后新羅征伐のごとき紀州の国

松浦川にて鮎を釣りし事とて所々の名所旧跡

やすく哀小泥む樹影さうへ今をを根なびこれり

一若木桜　須磨のあけぼの

むかし源氏の君すまはしまりし所なり小屋小樹ともに源氏の君よりいつくしみ給ふ所なり

定家

雲のまをいでしらくもとみる

桜さく花の雲の末ふり捨てすみ所なれば

手載

詠て来ぬ人を待ちの松風

一後の山　月上の山なり

大木

月出ずはの山を時くに源氏の屋敷ようる浦風

西海

千首

その人のおもひしとて宿の屋敷のふる庭ばかり

西戸

○須磨寺の風景

御よ浜より九一の谷有戦場のかりう後の新浜から
を一里半余坂湯境と云の十里余坂小浜より北
陸越の山はきし峠くらくて峯をのし前海南海紀の
路浜路書和泉の浦々雑波合まんくにて塗海船お
よ遠ゆ九紫万ゆ浜ろ船あよ平ゆ船の船の
平ゆ船不通と顧ゆ後坂ゆ峯遠ゆ松ぬんろ浦も
なめ浜ゆ人ゆ山下い昔ゆかろめ色の去ごとにもと
あくゆ用くゆ未の橋浜参へ松風村毎の色ゆ
一末ゆ雲も手ゆ也嶋ろ名ゆ

一浜ゆの実屋　次まゆ湯湯立ゆ毒ゆ
重花　ちめ月ゆ色ゆ浜ゆ人ゆ也ゆ浜ゆ

食業　あるひ浦ゆ不ゆ雲ゆ月ゆ浜ゆ志ハ或世孫ゆ兜の次ゆ乃国守書
○　鵜越の道ろういゆ峯ゆ鵜ゆ坂ゆ峯ゆ
小一の谷浜坂ゆ義経乃陣ゆ
俗云浜坂仙人気ゆ旺ゆ我ゆ根を現し仙境ゆ為ゆ暫ゆ
浦ゆ往歴ゆ人ゆ浜ゆ

一一の谷　浜浜ゆより六十町

谷の長さ四十余横弐拾九ゆ三ゆ十二間ゆ
九二十余二の谷ゆ幅ゆ九ゆ二十四十九ゆ

一　安徳天皇御遷幸陣所
寿永三年平ゆ一の谷ゆ
一き陣ゆ小三ゆ四ゆ方ゆ山ゆの浜ゆ

合又一ノ谷三の谷の名よ法勝寺庫裏の迹あり此所を浪ヶ乃
上野と云
義経ひよどり越の嶮岨を攻給ふ海浜浦の
二ノ谷の広さ三十余よこ八町ある谷口より浪打ちて七十間
余一ノ谷二ノ谷の間二十四町餘山路小
嶮阻あり　坂落　巖石峻
三の谷の広さ二十余間十九町ある九町谷口今浪打きはまて
十町奥二ノ谷と三の谷と乃間弐丁
一　敦盛落　三の谷の間往還せ少上て
太夫平敦盛と寿永三年辰二月七日一の谷落城の日敵谷
須磨浦逐電より討のかれ十六歳空頼瑳清大居士

此石塔あつ盛の墓所なりと云傳へたり
高さ一丈一尺臺石巾尺四方ありとかや
○又此塔の上より泉あり井戸乃水あり

敦盛石塔

一休

昔斯地有戰場名　流血染殘嬾木櫻
須磨浦風散花夕　恰如熊谷打敦盛

一鉢伏峯　三ノ谷の上といふ
昔神功皇后夷敵を退治ありて式山嶽に登り
士卒を集めて甲をぬぎて伏名軍功を語れ
ひ依て鉢伏乃峯と云　曽れ盛と伏たるまつり
一須ま浦　兵庫の一里半東西濱と今村と

魚ヶ川山ありこれを川あり須ヶ浦の浦へ 俊成
千載 月雨はくもれる海の海の浦く 人丸
拾イ 白浪義あてと云かさ須ヶ浦の浦く
須ヶの海辺をしたふ
○隱江 須ヶの浦云 ○摂津の海 エンケイ法師
六帖 ふかりの江く琴をくらもう浦まのき乱くぐ人へ
万葉 ふり須まよりふり江く生者ら沢蓮浦ふ人
一境川 兵庫ヶ二里
摂津と播ヶと支国の境なり細川あり添氏屋敷の戦場乃
村ハ東生田の社と直ちと西搦手ハ搦引塩屋村迄と限つ
平家物語と境川ヶ境地村まて拾イ引西熊谷ハ出家

平山義重一二のうけ先陣あつそひ山西へ
○境川ヶ西搦引ハ、三里須磨の浦、海上三里程
寿永三甲 辰二月七日一の若合戦平家対死の人へ
と云三月ハ元ろく元慶元年二月
一ふらせ人の三位通盛 三十キ 木村源太ウツ
一義人を支業盛 十七 土屋ヶ手ヶ対
一あられ者清方 十六
一むさしの者知章 十六
一ひら井の者師盛 十七 平田ヶ方ヶ
一かりの者清貞
一たど盛の者経正 盛ヶ者ヶ対
一無官者支教盛 クニガ人ヶ対
一口さの者経俊 今ハ平ヶ対
伯大夫ハ一ヶ平北ヶ盛俊 一位地者師教方
山ヶ者ヶ家後の二十人へと軍ヶ不ハ

所々に牧の跡あり　寛永七庚寅年しるす

一　薄蔵石屋造　三百七十九度　一　茶仙ゐ　九百八十度及
一　薄海石屋剣　三百七十度及　一　薄昌寺剣　三百六十度余
一　一通上人　四百二十二度成　一　須心ノ寺　八百二十度及
一　同星堀上人　十六年成　一　大安寺橋ゐ　七百二十度及
一　法蓮公覚　六百三十度成　一　一の宮城　六百五十度成
一　同　石塔建　四百二十六度　一　別当　八百二十度及
一　薬師相　八百十年余

矢田部郡丹生山田の庄旧跡二ケ所　兵庫より北三里山中

一　梅雨井　京畿村栗花落氏の宅よりあり

水の源出清間七尺余且三尺深さ三尺ほどの水底まゆれ
ども梅雨に入る必涸れ出る山水口とも門とも稲乃日数を
宮む五月栗乃花の落る時分に成梅雨の時節なる田人は三度
作り此月は姫とは姫狙山田尤衛門尉真勝八四十七代廃帝
天皇の御宇朝廷より代々三位は横萩右大臣豊成の子乃息
女白滝姫を恋慕く思ひ云々白たき一ゐの和歌をなく
侍

中ねひめの跡

雲ぞたに七かく成ぬ岩井の水をさのみ乳恋ろ為男よ
とよゝて女びるさ形んと云て雑面切りをきハなをあこゞ毛ハ

是より返事ナクば得立ぬと申されいさみ立て
三月乃稲むのを清めこゞ屋より出ぬおちよ白鬚の水
と歌ておとりきまに八幡成のきもう彼ゞ心ばしの御うらめとを感ず
終に帝小ぶして白玉ひめを妻給ふ後に帝より孫ゝ
に天國乃御剱をたゞしのみこさ三尺寸ぞ其後白鬚一男を産て
三とせの間ゆうひぬ仲哀にわかれ遺骸を奉しきの東坂
に埋むり祠て叢祠と号し矢戦天に祀ひまつる時に水わき
お今小野りて梅宮を新む

一鷺尾旧迹　下村

家記　桓武天皇の皇子葛原親王十四代安濃守三良貞盛
孫舞名代良清綱より始て鷺尾の姓をあらため次男武

久を当しの在乃庄と号し山間の庄に孫の武源一の谷
戦場に出よりとへ乃雄所を越ぬ武久案内者に應諾
して生年十七にて為る一子を為時是を鷺尾太良源春と云
大和乃譚をのぶより世孫小源ひ人為子の勇士なり
武久は兵具和と賜ふ

一太刀　一振長二尺七寸　大和ものなり
一ゝゝ　一流ひのの丸
一長井六良太刀
右代々伝来ぬ長の太刀八関白秀吉へ献
一長刀　一振
一武蔵坊弁慶長刀四太刀長四尺
一陣笠　一張
一鎧　一領わりもす武久ぞうぎ

兵庫十景の題 扶桑名勝詩集に出ル

籠梅早春　　淡川清流　　經島妹月
兵庫帰帆　　福原旧都　　布引飛瀑
廣田神社　　和田岬松　　武庫暮雪
生田晴嵐

須磨浦十景乃題 日

若木櫻花　　上野夏州　　関屋間月
兵庫飯帆　　後山帰樵　　武庫晴雪
塩屋暮煙　　須磨寺鐘　　一谷古戦
磯馴松風

福原三十三番観音札所

一番　兵庫　菜仙寺
二　駒林村　法立寺
三　駒林　海泉寺
四　駒林村　慈眼菴
五　駒林村　松源菴
六　同　松月菴
七　野田村　正福寺
八　東スミ村　浄徳寺
九　スミ寺　福祥寺
十　大手　勝福寺
十一　板宿村　禪昌寺
十二　湊田村　妙示寺
十三　長田村　福壽菴
十四　夢ノ村　長福寺
十五　島原　願成寺
十六　石井村　宍善寺
十七　平ノ村　東福寺
十八　荒田村　宝池院
十九　坂本村　龍泉寺
二十　花熊村　福徳寺
二十一　兵庫　極示寺
二十二　兵庫ヒノミ　神宮寺
二十三　兵庫　西光寺
二十四　同　惠林寺
二十五　兵庫　法勇寺
二十六　同　来迎寺
二十七　同　金光寺
二十八　同　福嚴寺
二十九　同　福海寺
三十　同　永福寺

廿一 兵庫能福寺　廿二 同 真福寺　廿三番 同 真光寺

兵庫今法方位及法

一手ぬかたく、六丁
一いくさ、北六丁
一布引滝、一里余
一いちの宿ゑの宮、三里
一きやさん、二里半
一ミなげ、三里
一あしや、四里
一西のみや、五里

一京、十九里余
一伊セ、京道り九十二里
一江戸、京道り百十二里

一ちくま、九里
一あしい、一夜三木、七里
一江戸、十四里

一ごぜん、二十余
一ニさよりたう、五十丁
一まきのさき、九丁
一あがさ、一里
一ゆざい、一里半
一すまでら、三里
一二のくま、四里
さかい川、五里

一ちくま、九里
一あしい、一夜三木、七里
一江戸、十四里

一ゆきの宮、三里
一ありま、七里六丁
一三田、七里
一こやの、七里
一尼崎、七里
一ゑんぎき、八里
一大坂、十里

一むろ、九里
一とも、五十里
一ゑびま、九十里
一下の関、百三十八里
一ひらど、百三十五里
一長くき、二百九里

文福原ノ都跡兵庫ハ前後ノ名高キ古迹ハ数ヘ尽シ難シ右ノ世知ル名所多シ一番ニ数ヘ難キ事ハ其外ニ多シ書モ尽シ難シ僕連年成ル処ノ志ノ為ニ遍世國花萬葉集拙州群談ノ書等行基ノ書部詳ニ有ト雖モ未タ大部ニ及ハスニ感スル次第ナリ又順ノ後脱漏訛謬アルヲ免レ難シ然ルニ愈止事ヲ得ス遂ニ無ラシム小略ヲ以テ江都旅寓ノ中ニ於テ梓ニ鏤ム道知邊ノ倫人

寶永七庚寅八月良日　摂州兵庫津　菊屋新右衛門

H. TAKAO BOOK SELLER
NIHONBASHI 4 CHIYOME OSAKA.
高尾書店

明治四拾年十月十日印刷
明治四拾年十月十五日發行

（非賣品）

神戸史談會代表者
神戸市下山手通六丁目九拾番屋敷
編輯兼發行者　五十崎夏次郎
神戸市古湊通三丁目百貳拾七番地
印刷人　堀尾音吉
神戸市古湊通三丁目百貳拾七番地
印刷所　堀尾印刷所

神戸市元町通四丁目六拾番屋敷
發行所　神戸史談會

291.64
U174h

025626-000-1

291.64-U174h

兵庫名所記

植田　下省／著

M40

ADC-3126